令和４年度
会津若松市
男女平等に関する作文コンクール
入選作品集

会津若松市

目　次

令和４年度　会津若松市「男女平等に関する作文コンクール」の審査総評

審査委員長　会津若松市男女共同参画審議会　会長　木村　淳也

●小学生低学年の部

最優秀賞　好きなこと　会津若松ザベリオ学園小学校　二年　物江（ものえ）　まゆ　さん…1

優秀賞　男女不平等？　城南小学校　三年　君（きみ）　光平（こうへい）　さん…3

優秀賞　すきなものはすき　城西小学校　二年　鈴木（すずき）　咲玖（さく）　さん…5

優秀賞　サッカーはだれでも出来る。　一箕小学校　三年　平（たいら）　結衣（ゆい）　さん…7

●小学生高学年の部

最優秀賞　男子だけでやりたいなぁ　城北小学校　五年　山田（やまだ）　晏史（はると）　さん…9

優秀賞　男女の役割　一箕小学校　五年　伊藤（いとう）　彩瑛（さえ）　さん…11

優秀賞　「ふつう」はむずかしい　小金井小学校　四年　百瀬（ももせ）　寧衣子（ねいこ）　さん…13

●中学生の部

最優秀賞　我が家を通してみえた平等　第四中学校　二年　上髙（かみたか）　理子（りこ）　さん…15

優秀賞　男女平等について　第四中学校　一年　安部（あべ）　結音（ゆうね）　さん…17

優秀賞　女性だけ？　第六中学校　二年　岩橋（いわはし）　奏（かなで）　さん…19

優秀賞　男女平等とは　第一中学校　一年　土田（つちだ）　日和（ひより）　さん…21

優秀賞　男女平等と男女差別について　第一中学校　三年　鶴巻（つるまき）　茉桜（まお）　さん…23

※同賞については氏名五十音順です。
※公表の承諾を得た作品を掲載しています。
※各作品の講評は、選考審査を行っていただきました会津若松市男女共同参画審議会委員の皆様によるものです。

令和４年度　会津若松市「男女平等に関する作文コンクール」の審査総評

審査委員長　会津若松市男女共同参画審議会
会長　木村　淳也

日本国憲法第14条は、すべての国民が法の下に平等であって、どのような理由があっても差別されないと定めています。会津若松市は、日本国憲法の精神をわたしたちの暮らしの中で実現するため、福島県内でもいち早く平成12年に「男女共同参画都市宣言」を行いました。そして、平成16年には「会津若松市男女共同参画推進条例」を施行しました。

男女平等に関する作文コンクールは、「男女共同参画都市宣言」の中にある「性別にとらわれず、ひとりひとりの人権が尊重され、個性と能力が生かせる」会津若松市を目指して策定された第５次男女共同参画推進プランのコンセプト「次代を担う子どもたちへの期待」のもと実施されています。

今年度の作文コンクールは、小中学生合計で423作品（小学生低学年16作品、小学生高学年59作品、中学生348作品）と今までにないほど多くの方に応募いただきました。すべての作品に対する厳正な審査の結果、最優秀賞３作品（小学生低学年１作品、小学生高学年１作品、中学生１作品）、優秀賞９作品（小学生低学年３作品、小学生高学年２作品、中学生４作品）が選出されました。

作品は、ランドセルやハンカチなど持ち物の色や家庭における家事分担に関すること、スポーツや職業における男女の異なりに関することなど、子どもたちが暮らしの中の身近な体験や学びから得た「気づき」を題材に男女平等についてよく考えまとめられていました。持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）にある「ＳＤＧｓ５．ジェンダー平等を実現しよう」についてまとめられた作品もあり、どの作品も甲乙つけがたく素晴らしい作品ばかりでした。

子どもたちには、ぜひ、作文コンクールの経験を忘れず、「性別にとらわれず、ひとりひとりの人権が尊重され、個性と能力が生かせる」社会、そして、誰もが安心して暮らせる社会の実現に向けて、ひとりひとりができることに取り組みながら一日一日を大切に過ごしてほしいと思います。

最優秀賞

好きなこと

会津若松ザベリオ学園小学校　二年　物江　まゆ

　ようちえんのとき、ある男の子がかおりつきのかわいいティッシュをもってきました。それを見たべつの男の子が、

「男なんだからかわいいティッシュをもってきちゃだめなんだよ。」

と言いました。わたしはそのときどうしてだろうと思い、

「だれがどんなティッシュをもってきてもいいんだよ。」

と言ったのをおぼえています。今思うと、ティッシュをもってきた男の子はとてもかなしかったと思います。自分の好きなことをだめだと言われたのだから。

　わたしの妹は今よりも小さいころ、お人形やおままごとよりものりものやたたかうおもちゃが好きでした。みんながあそべるばしょであそんでいるとき、のりもののおもちゃでばっかりあそぶ妹を見た大人の人が、

「女の子なのにめずらしいね。」

と言っていました。でも、私のお父さんとお母さんはいつも好きなものであそんでいいと言っていました。妹のたん生日プレゼントも妹が好きなものをかってあげていました。

　妹のしょうらいのゆめはしょうぼうしです。しょうぼうしは、男の人の方がおおいしごとですが、わたしは妹がしょうぼうしになったらかっこいいと思います。

　男の子とか女の子とかかんけいなく、みんな一人一人ちがう人げんだから好きなことややりたいことはちがいます。男の子とか女の子とかかんけいなく、その人の好きなことややりたいことをみとめることが大切だと思います。みんながそんなふうに思える

ことができたら、みんなが自分らしくいられるのではないでしょうか。

講評

まゆさんのご両親は、乗り物や戦うおもちゃで遊ぶことが好きな妹さんに「いつも好きなものであそんでいい」と言います。男女の垣根を超えてのおおらかな家庭環境が、素直に本人の心に受け継がれている作品に、心打たれました。

優秀賞

男女不平等？

城南小学校　三年　君　光平

男女の平等を考えるのに、まず平等を辞書で調べてみました。そこでは「差別したり、差をつけたりしないで、みんな同じである事」だとわかりました。カタツムリはしゆう同体なので、平等ですが人間は男の子と女の子にわかれているのでどうしても不平等になってしまいます。ぼくはふだん男の子と遊ぶ事が多いですが女の子と遊んでいても楽しいです。

なのであまり「差」を感じた事がありません。でもぼくは男の子で良かったなぁと思いました。なぜかというと、女の子は赤ちゃんをうむのが痛そうだし死ぬ事もあるかもしれないと聞いたからです。

女の人は赤ちゃんをうむと車にひかれたのと同じくらい体にダメージをうけると、お母さんに教えてもらいました。お母さんはぼくをうむとき、ベッドに手がはさまって手のほねをおったそうです。でもほねがおれるのにかまっていられないほどおなかがいたかったそうです。そんなにいたいのは、ぼくにはがまんできなさそうです。もし本当に車にひかれたら何か月も入院するはずなのに、赤ちゃんを産んだ女の人はすぐ家に帰ってきた赤ちゃんのお世話をしたり、ごはんを作ったり大へんです。あんまり大へんすぎて、一人で苦しくなって赤ちゃんをおいて自さつしてしまう人も日本では多いと聞いて、すっかりこわくなってしまいました。だからぼくは男の子で良かったと思ってしまいます。でも男の子も女の子も仲良くする事は大切です。仲良くないと学校でいっしょに遊ぶのも楽しくないです。ぼくたちはまだ子どもだから赤ちゃんも生まれないし平どうですがいつか大人になったら女の人が大へんになった時、仲良くできるように、どうすれば平等にできるのか、お母さんと話し合ってみました。赤ちゃんを産んだ女の人は、さん休といってお仕事をお休みして、体を休めたり、赤ちゃんとゆっくりすごす時間

があるそうです。でも車にひかれたのと同じくらいの体だから、お父さんが一しょにお仕事をお休みして、お母さんと赤ちゃんのお世話をしたりするそうです。これならぼくもできそうだなぁと思います。ぼくの得意なりょうりはウインナーをやくことと、バーミックスでバナナオレを作る事です。えいようもあるし、きっとよろこんでもらえると思いますが、ミルクの作り方や子もり歌をおぼえたりして、いたい事はかわってあげられないけど、いたい事をがんばった女の人を守ってあげる事は出来そうです。

男の子と女の子の平どうは大切ですが、ぜったい平どうにならない事もあります。だからぼくはできるだけ平どうになるように、男の子だからできる事を女の子にしてあげたいです。だから今からりょうりもおぼえてけんこうに良いごはんを一しょに食べさせてあげたいです。

講評

光平さんのお母さんは自分を産んでくれた時に、お腹の痛みに加えて「ベッドに手が挟まって手の骨を折った」そうです。この出産と産後のエピソードが学びとなり、男女平等を考え、具体的な行動にまで結びつける秀逸な作品でした。

優秀賞

すきなものはすき

城西小学校　二年　鈴木　咲玖

ぼくは、かわいいものやきれいなものがすきです。おかあさんとかいものに行ったとき、

「すきなパジャマをえらんでいいよ。」

と、言われたので、ぼくは、ピンク色のアイスクリームがらのパジャマをえらびました。

「ピンク色でいいの？」

と、おかあさんが言ったけど、ぼくは、

「かわいいから、これがいいんだよ。」

と言って、かってもらいました。いまも、お気にいりでよくきています。おとうさんも、

「もっとかっこいいのなかったの？」

と、聞いてきたけれど、ぼくは、どうしてそんなことを言うんだろう、と思いました。ぼくが、男だからかっこいいものをえらばなければいけないきまりはないし、ピンク色をえらんではいけないというきまりも、ありません。

ぼくには、一さいのおとうとがいます。おとうとは、男の子だけどみんなからよく、かわいいと言われています。でも、ぼくは、かわいいよりかっこいいおにいちゃんと言われることが多いです。また、赤ちゃんのころはかわいかったな、と言われることもあります。ぼくは、大きくなると、かわいいと言われることがなくなっちゃうのかな、とすこしさみしい気もちになります。

だけど、おかあさんは、

「かわいいと言われるのもうれしいけど、かっこいいおかあさんになりたい。」

と、よく言っています。ぼくは、女の人でもかっこいいと言われることがうれしい人もいるのだな、と思いました。

ぼくのいえでは、おとうさんもおかあさんもおしごとをしています。だから、ごはんづくりは先にかえってきたほうがします。ぼくもおてつだいをする

ときがあります。おとうとのせわも、かぞくみんなでします。そうしたほうが、ごはんを早くたべられるし、おとうともうれしそうです。ぼくが、おとなになったときもそんなかぞくになりたいです。

ぼくは、ピンク色やかわいいものがすきなことを男子のくせにへんだ、と言われたり、はずかしい気もちになったりするのはいやです。男子でも、女子でもすきなものはすきだと気もちよく言える町になってほしいな、と思います。また、ぼくのいえみたいに男でも女でもかんけいなく、たすけあってみんながうれしい気もちになる町になってほしいです。

講評

男らしく女らしく生きるではなく自分らしく生きたい。そして好きな物は堂々と好きと言える町になってほしいという願い、更にはお家のように助け合ってみんながうれしくなる町になってほしいという大きな世界観が素晴らしいです。

優秀賞

サッカーはだれでも出来る。

一箕小学校　三年　平　結衣

「試合するからじゃんけんして。」

わたしは、サッカーをしています。男も女もかんけいなく、学年もばらばらで練習や試合をしているので、平等じゃないと感じた事はありません。でもお母さんは、昔はサッカーというのは男の子がするスポーツだったと言っていました。男も女もかんけいなくできるスポーツなのにどうしてなんだろうと思いました。サッカーができるわたしはとてもしあわせだと言われても、ちょっとピンときませんでした。

そこで、男と女が平等じゃなかったらどうなんだろうと考えてみる事にしました。もし女だからサッカーはできませんと言われたらどう思うか考えてみました。まずおこると思います、とても。できない理由がないからです。くやしいなとも感じると思います。理かいできない理由でやりたい事をがまんしなければいけないというのは、泣いて泣いて泣きつかれてねむってしまうほどくやしいと思います。だから男と女のくべつなく、わたしがサッカーができる事はふ通だけどうれしい事なのかもしれないと思いました。

でも男と女で力のさはあると思います。たとえばボールをける強さとか、足の速さとかを男の子からパスをもらったり、試合をしている時に感じたりします。だから男女に分かれて試合をしたら女子チームはまけてしまうと思います。けどこう考えてしまうのは、男子だから女子より強くて速いものだとかってに考えてしまっているのかなとも思います。平等はむずかしいです。

じゃあ平等にするにはどうすればいいのか。かんたんに出来る事はないかと考えてみました。たすけ合えばいいと思いました。男とか女とかじゃなくて、一人一人の出来る、出来ないをたすけ合えばいいん

じゃないかと感じました。同じ人間だからです。サッカーも同じスポーツをしているなかまだから、たりない所、にがてな所をたすけ合って試合をすればいいと思います。わたしはドリブルはにがてだけどがんばってシュートは決めたいのでチームのなかまにたすけてもらえたらうれしいです。そうすればみんながたすけ合ういい世の中になると思います。

平等はむずかしいけど大人になってからもそれを考えたいと思います。すきな事をやれる世の中で生きていきたいからです。わすれずに考えつづける事が今のわたしが出来る事だと思います。これからもサッカーを楽しくつづけていきます。

講評

サッカーというスポーツを通して、男女平等について「一人一人の出来る、出来ないを助け合えば良い」と言えることは、とても良い体験ですね。これからも、よく考え、よく聞く、開かれた眼を持ち続けて下さい。

最優秀賞

男子だけでやりたいなぁ

城北小学校　五年　山田　晏史

「男子だけでやりたいなぁ。」

ぼくは、こんな風に思ってしまうことがある。男子と女子が一緒に活動する事は楽しいし、

「こんな時は、女子の力が必要だな。」

と思う時もあるのに、本気の勝負や遊びになってしまうとそんな風に感じてしまう。

「男女平等」という言葉を見る事も、男子と女子が同じけん利をもって生きていく事は、大切だという意味もしっている。同じ人間だから、性別で、出来る事と、出来ない事を分けてしまうのは、だめだと思う。みんなが自由に、きらきらとかがやいていける国で大人になっていきたいと思うし、そんな国になってほしい。でも、一人一人が気持ちやけん利ばかりを主張していったら、好きなように勝手にやればいいという思考になってしまうのではないかと、心配に思う気持ちもある。男子と女子が同じように一緒に出来る事と、出来ない事を考えてみた。

お風呂に入る。サッカーや陸上のスポーツみたいに、小さい時は一緒に出来た事も、大きくなると男女でわけていかなければならないこともある。それは、体の作りのちがいから力の強さも、筋肉のつき方も、足の速さも変わってくるから仕方のないことだと思う。スポーツでは、男子と女子を分けて勝負することが、結果の平等になっている。

「男子だけでやりたいなぁ。」とぼくが思ってしまうことが多いのは、まだ男子と女子が一緒にできる事が多いからだと気がついた。中学生になったら、体育の時間は、男子と女子に分かれてじゅ業をすると、お兄ちゃんに聞いたことがある。その時は、

「何でだろう」

と感じていたけど、「男子だけでやりたいな」と思ってしまうぼくの気持ちにつながっているように感じた。

サッカーの試合では、勝った時はみんな笑顔だけど負けた時は

「男子だけでやってたら、スピードも、体の強さも負けなかったかもしれない。」

と結果によって受けとめかたが変わってしまう。「男女平等な社会づくり」も、同じような気持ちが元になっているような気がした。社会の中でよいけっかがでないと、人のがんばりや気持ちがみとめられない気がする。ぼくたちが日常で大切にしなければいけないことは、結果がでてからではなくて、自分とちがう人間の考え方を「知ろう理解しよう。」という気持ちだと思う。結果がでたときのように、「自分のうれしい。」「自分の好き。」「自分の大切。」を仲間や家族に大事にしてもらえることに感しゃして、他の人の「大切なこと」「気持ち」「立場」に気づいていけるようになることが、今のぼくにできる「男女平等」への気持ちです。

講評

勝ち負けで判定されるスポーツから、男子と女子の関わり方について考えているのが子どもらしい。結果を通してどう考えるべきかを正直な感情の自分を分析しながら、男女平等のあり方への理解を深めようとしている気持ちが伝わる。また、勝ち負けの評価ばかりでなく、違う考え方の人間も大切にしたいと思いを深めている点も評価したい。

優秀賞

男女の役割

一箕小学校　五年　伊藤　彩瑛

「男女平等」とは、それぞれが性別にとらわれずに得意なことで活やく出来ることだと思います。私はしょく業と家庭の二つにしぼって考えました。

私のお母さんが子どものころはほ育士さんやかんご師さんは女性の仕事というイメージが強かったそうです。しかし私の通っていたようち園では男性のほ育士さんが三人いました。かた車やおんぶなど力を使う遊びをたくさんしてくれたことをよく覚えています。女性のほ育士さんにはかみの毛を結んでもらったり、あやとりと折り紙など手先を使う細かい遊びを教えてもらった記憶があります。

かんご師さんは小児科では女性が多く男性かんご師さんをあまり見たことがありませんが、総合病院などで車いすをおす男性かんご師さんを見かけたことがあります。足をけがしたかん者さんをいすから車いすへだきかかえて移動させていました。かんご師さんはとても力が必要な仕事なのだと思いました。男性と女性は元々体の作りがちがうので、それぞれが得意なことを仕事に生かしている所が良いと思いました。

私は、家庭での男女の役割についても考えました。昔は、男性が外で働き、女性が家庭を守るという考え方が強く、今でもそのような家庭があると思いますが、働く女性がふえて、女性はとてもいそがしくなってきています。朝、仕事の前に家事をして、仕事が終わると子どもをむかえに行き、スーパーへ行きます。家に帰るとすぐに家事をします。このように、いそがしい毎日を送っているお母さんがたくさんいると思います。私はしょう来同じことが出来るかと考えると、とても大変だなぁと思います。例えば、子どもを産むということをまよってしまい、子どもを産まない人がふえ、お年よりだけの世界になってしまいます。そうすると人口がだんだんへって

しまいます。なので、家庭でも、ふうふで役割分たんが出来たら良いと思います。例えば、女性が食事を作ったら食器あらいや後かたづけは男性がする。女性がせんたくをし、かわいたら男性がたたんでしまう、などです。そうすることで、女性が一人で自由に過ごせる時間や、すいみん時間がふえると思います。お母さんが外で働いて、お父さんが家事をするという家庭もあります。それぞれが得意なことを発きしていてすてきだと思います。このように全ての人が自分の得意・不得意を理解して、それを活かして仕事や家庭で発きしていくことが大切だと思いました。私も、これから家でのお手伝いや勉強をがんばって、得意なことをふやして、しょう来は人の役に立てる大人になりたいです。

講評

「『男女平等』とは、それぞれが性別に捉われずに得意な事で活躍出来る事だと思います。」という所が素晴らしいと思いました。また、「将来は人の役に立てる大人になりたい」という所も良かったです。

激動の時代ですが、真っ直ぐに成長されることを願っています。

優秀賞

「ふつう」はむずかしい

小金井小学校　四年　百瀬　寧衣子

なんで男の人ばっかりなんだろう。ふしぎ。半夏まつりで大好きな天ぐがかっこよく歩いていました。他にもたくさんの人が色々な道具を持って歩いていました。昔にタイムスリップしたみたいでした。でも、歩いている人は、全員男の人でした。ふしぎでした。

どうしてなのか、家の人に聞いてみました。そしたら、今は男だから・女だからとせいげんされることは少なくなったけど、昔は性別で、できることがちがっていたと教えてくれました。少し前まで、野球もサッカーも男の子のスポーツだったと教えてくれました。その話を聞いて、へんだなと思いました。男女さべつだと思いました。

私は今までそういうふうにさべつされたことはありません。見たこともありません。もし女だからとさべつされたらとてもいやです。でも、もしかしたら、気付かないでさべつしてしまっていたかもしれないと思いました。例えば、ランドセルの色です。青は男子、ピンクやむらさきは女子のイメージがふつうです。女子は室内で遊ぶ、男子は外で遊ぶのがふつうかなと思っていました。他にも洋服やおもちゃは、男の子用・女の子用と書いてあると、そうなのかなと思ってしまいます。でも、本当は自分が好きなものを選ぶのがいいと思います。これがふつうと押しつけて、他の人があれこれ言うことではないと思いました。

ひとりひとりが自分の考えで選んだり、決めたりできるようになったら、もっと楽しくなると思います。しょう来の可のう性ももっともっと広がると思います。今、私はしょう来の仕事についての本を読んでいます。その中で「できないことはできる人がやればいい。各自が自分のよいところを出し合って、協力することが大切になってくる。」という事がど

の本にも書いてありました。協力するには、せいべつは関係ありません。大切なのはその人らしさです。「個性を大切にするのがふつう。」とみんなが思うようになればいいです。

でも、それはむずかしいことかもしれません。なぜなら私はまだ十才だけど、私の中にも、知らず知らずのうちに、さべつしていることがあったからです。大人はもっとあるんじゃないかなと思います。だから、自分とは考えがちがっていても否定しないで、最後まで話を聞いてみることが大切だと考えます。自分の中のふつうは他の人にとってはふつうではないかもしれないからです。

昔に比べればさべつはへってきていることが分かったけど、ゼロにするのは簡単なことではありません。だから、自分の意見とちがっても相手に意見を押しつけずに、まずは話を聞いて受け入れてみようと思います。それが、自分や周りの人の個性を大切にすることだと思いました。

講評

昔からの行事やスポーツ、ランドセルの色など、日常の生活の中から男女が区別されることに気づきを持ち、考えを深めているところが評価できる。個性のあり方を自分なりの考えを持って見つけ出している。違う考えの人に対しては、最後まで話を聞き受け入れようとすることが、互いの個性を大切にするふつうにしたいとする思いが共感できる。

最優秀賞

我が家を通してみえた平等

第四中学校　二年　上髙　理子

今回、この課題に向き合うに際して、知っているつもりでいた「平等」の意味をまずは調べてみた。平等・・・偏りや差別が無く、みな等しいこと。

予想通りの結果に少々ガッカリしつつ、身の回りで「平等」を目にすることは出来ないかと考えたところ、一番身近な社会「我が家」に注目してみることにした。

私の両親はどちらもフルタイムで働いている。業種は異なるが、二人共「バリバリ」とか「ガンガン」といった形容が似合う程働いている。父の家の中での仕事は、お風呂掃除と週末のトイレ掃除、そして私の塾の送迎、母は毎日の食事の支度と洗濯、掃除、そして「名のない家事」と言われる細かな仕事だ。

どう見ても母の過重負担だ。八対二の割合と言っても大袈裟ではない。

このことをどう思っているのか母に聞いてみた。すると、

「自分の家の中の仕事にお父さんと比べて不平等だと思ったことは無いかな。平等とか不平等とかで言えば、私はお風呂やトイレの掃除があまり得意じゃないから、それをお父さんにやってもらうことが私の中で平等になっているのかも。」

同じ質問を父にもしてみた。すると父は、

「俺は料理とか得意じゃないからなぁ…。でも、お風呂とトイレの掃除は好きだよ。」

外で仕事をしていても、女性だから家事の大半をする、男性だから別にやらなくて良いではなく、二人にとっての家事の分担とは苦手なことは無理をせず、得意な方が、又は好きな方がやれば良いというスタンスの様だ。つまりは、数においての平等ではなく、心の平等ということなのではないだろうか。

今回この作文を通して、平等が生まれるにはお互いのことを思い、敬うことが大切なのだと感じた。

そしてこのことは、学校生活や友人関係にも通じるものではないかと思った。

個々それぞれが違っていて当たり前、相手のことを全て分かりきろうとすることは不可能だが、理解したいという姿勢や気持ちで相手と向き合うことでその人の良い所（尊敬する所）に気付き、そこから偏見に囚われない平等な気持ちが生まれるのだと思う。

これから先、人間関係で悩むことも多々あるだろう。そんな時は立ち止まり、「心の平等」を求めようと思う。そうすればきっと、「心の自由」も手に入れることができるから。

講評

両親がそれぞれ得意分野で役割を分担している。負担割合はあるが、互いに敬いながら生活している。そして、家族から「心の平等」なるものを学び、自分も将来そうありたいと願っている。家族愛・家族の絆を感じる。

優秀賞

男女平等について

第四中学校　一年　安部　結音

「私は全然平気だよ。」

私の母は幼稚園の先生をしています。仕事で帰りも遅く、休みの日も家で仕事をしている姿もあります。私の学校の行事に参加出来ないことや、一緒にやりたい事が出来ない時があると母は「ごめんね」と言います。だから私は「全然平気だよ」と答えます。本当はみんなが授業参観にお母さんが来ているのに私だけ父ははずかしいけれど、それを言ったら「ごめんね」と言っている母が悲しんでしまうと思うと「全然平気だよ」そんな答えが出てきます。でも我が家はその分、父は夜勤があり日中家にいるので、私の行事に参加してくれたり、部屋そうじや洗たくたたみをしてくれます。祖母は夜ごはんを作ってくれるし、祖父は学校や塾の送り迎えをしてくれます。みんなが出来ることを協力してやっているので、何不自由なく過ごせているのです。男だからとか女だからとかよく耳にしますが我が家にはまったく関係のないこと。そんな風に一人ひとりが出来ることをすることで家族が成り立っているのならすばらしいことだと思いませんか。

母は小さい頃からの夢を叶え幼稚園の先生になりました。祖母の作ったごはんがあるからすぐ食べられるし、祖父が入れたおふろがあるからすぐに入れるのが本当にありがたい、そう言って、疲れて帰ってきても私たちの話を聞いてくれたり、学校の準備を見てくれます。母が休みの日は、母がごはんを作っている間、父がいつもの洗たく物を片付けます。そうすることで、家族の時間が出来て一緒にテレビを見れたり話ができます。

しかし、母の実家に行くと祖母やひいおばあちゃん達は、

「もっと女なんだから家のこともやらないと。」

と母に言っている言葉を耳にします。女イコール家

の事、やはり昔の人は男は働き、女は家を守る、そう言ったそうですが、女の人も働くようになった今の時代、働きながら家の事もする女の人の方が大変になってしまう世の中になってしまうのではないでしょうか。男の人も片付けなど出来ることはあるはずです。

我が家を考えると父も家の事をやりながら仕事をし、母も家の事と仕事を両立して家庭でも、男女平等を大切にすることによって家族との時間も増やすことが出来る。みんなが自分の出来ることを相手を思ってやることで男女平等とも言えるのではないでしょうか。私はそう考えました。

講評

共働きの両親と祖父母が、それぞれに相手を思いやり、自分が出来ることを行うことで家族円満と男女平等につながっていると思います。作品から家族がお互いを認めあい支え合って、あらゆる分野に共同で参画し、いきいき暮らしている様子が伝わるすばらしい作文です。

優秀賞

女性だけ？

第六中学校　二年　岩橋　奏

私の将来の夢は、介護福祉士になることです。私は小さい頃からお年寄りと接することが好きだったので、体の不自由なお年寄りの力になりたいと思い、介護福祉士を目指すようになりました。

介護福祉士について、色々調べてみると、介護福祉士は女性の割合がとても高いことが分かりました。力仕事も多い介護福祉士になぜ女性が多いのか不思議に思い、調べてみました。

実際に高齢者の自宅を訪問して介助するホームヘルパーは、約九十二パーセントが女性です。女性が家事をしながらできる仕事として紹介されることも多く、パートや派遣社員として働いている人が約八割を占めています。高齢者の介助には、食事だけではなく入浴や排せつの介助もあります。体の大きいお年寄りもいるので、その分負担も大きい仕事だと思います。

これらのことをふまえ、私が思ったことは二つあります。

一つ目は、なぜ介護福祉士は女性が家事をしながらでもできる仕事として紹介されることが多いのかということです。介護福祉士の仕事はそれほど簡単なものではありません。確かに一般的に女性がすることの多い育児と仕事内容は似ているかもしれませんが、子供よりも体が大きく、不自由とはいえ大人と接するので、力仕事も多いです。人の生活を支え、命を預かる仕事なので女性ばかりに任せていい仕事ではないと思います。

二つ目は、女性と男性が協力して介護をしている家もあるということです。実際に私の祖父母がそうしています。今年で九十五歳になる曾祖母の介護を二人で協力して行っています。病院への送迎や荷物持ちなどは祖父が、買い物など付きそいは祖母が行っています。こうして女性と男性が協力して介護の

仕事をしているのです。

「介護」という言葉が生まれる以前、体が思うように動かない家族の世話をすることは男女関係なく行われてきました。しかし、時代が流れ、男性は外で働くようになり、女性は育児や介護といった性別分業がされるようになったのです。家事は女性がやって当たり前、上の役職には男性が優先して選ばれる、男性は育児休暇を取らないなど、様々な問題になっています。

私は今回、介護福祉士について調べた結果、性別分業という言葉につながりました。性別分業についても調べましたが当てはまる例がいくつもありました。自分の将来について考えたことで、世の中の問題に気づくことができました。性別に関係なく、一人一人が自分のやりたいことができるように、まずは自分自身の意識から変えていこうと思いました。

講評

貴女の抱いた疑問はとても大切です。介護士の仕事は男性もやるべきではないかは分かります。しかしそうはなっていない実態があります。でも疑問を持つことは大切なことです。周囲の人や関連本により追求してみて下さい。そうすれば貴女は社会に役立つ立派な大人に成長することでしょう。

優秀賞

男女平等とは

第一中学校　一年　土田　日和

「ピンクは、女の子のだから嫌。」

これは、先日、家族で弟の服を買いに行った時に、私が勧めたピンクのＴシャツを見て弟が言った言葉です。

その時は、色の好き嫌いがあるから、

「そっかあ、似合うと思ったんだけどなあ。」

と言って、その服を勧めるのを諦めました。

しかし、その後で、この弟の言葉って男女差別なのではないかと思いました。弟の中では「男は青や黒。女は赤やピンク」という構図ができているのかもしれないと思いました。

私は今まで学校で「男女差別」や「ＬＧＢＴ」のことなどをたくさん学習してきたので、「ピンクは女の子の色」という意識は全くありませんし、父がピンクのワイシャツを着る姿さえ好ましく思ってみています。それなのに、小学校二年生の弟が、「ピンクは女の子の色」という男女を差別するような言葉を発したことに驚きました。幼い頃から、そういう偏見を持っているということを考えると、男女差別については学校で学ぶだけではだめなのかもしれないと思いました。いまだに、男の人が髪の毛を伸ばしたり、結んでいたり、きれいにネイルしていることをまゆをひそめて見ている人たちがいることも事実です。また、ダンプやタクシーを運転している女の人を珍しいと思って見る人がいることも事実です。

体格や体力の違いはあるものの、男女の違いだけで、持ち物などの色や職業について、「男はこうであるべき」「女はこうあるべき」と考えることについて、まずは家族単位で考えていくべきなのではないかと改めて感じました。「男だってピンクの服を着るべきだ」などと言うつもりはありませんが、自由に好きな色の服を着たり持ち物を持ったり、髪型

や美容についても、自由に選べるような世の中にしていきたいと思います。

そこで手始めに、弟に、

「ピンクは女の子の色ではないよ。男の子が着てもいい色なんだよ。」

と教えました。すると、逆に弟から、

「僕はピンクの服は着たくない。それなのに着なくちゃいけないの？」

「僕は強く見える服が着たいのに？」

と言われて、頭を殴られたような衝撃を受けました。私はいつのまにか男女平等ということを意識しすぎて、逆に相手の個性をないがしろにしていることに気づいたからです。

「男らしさや女らしさを相手に押しつけてはいけない」と思いすぎて、逆に自分の考えを相手に押しつけていたのだと感じました。これからは、生活する中で自然に「男女平等」を理解できるように行動していきたいと思います。そして、できれば、自然体で相手の個性や考えを尊重しあえるような世の中になるように、できることをしていきたいと思います。

講評

服の色の好みから男女平等を意識しすぎて相手に押し付けていたことに気付く。そこから本当の男女平等を理解し、職業の選択やファッションの多様性に対しても違和感なく受け入れられる豊かな感性は素晴らしいと思う。

優秀賞

男女平等と男女差別について

第一中学校　三年　鶴巻　茉桜

近年、ＳＤＧｓという言葉をよく耳にしませんか。ＳＤＧｓとは「世界中にある問題を世界のみんなで二〇三〇年までに解決していこう」という十七個ある計画・目標のことです。その中の一つに「ジェンダー平等を実現させよう」といった目標が掲げられています。今、世界中でジェンダー平等・男女平等についての話題が注目され、考えられているのです。

私は男女平等とは、「男だから」「女だから」と性別で区別され、縛られることがなく自分の自由な選択で生きられることだと思います。しかし、今の世界の現状は、男女差別がまだまだあり、男女平等な世界とはいえないといわれています。

このような作文を書くにあたり、どんな場面で男女差別が起きているのか調べてみました。相撲の舞台である土俵で、挨拶中に倒れた市長を救助しようと土俵に上がった女性に対し、伝統を尊重するために、女性の方は土俵から降りるよう、行司に要求されることがあったそうです。女性差別だと捉えられますし、人命救助よりも伝統を優先しようとするのはどうかと思います。こういった差別的な伝統や風潮は変えていくべきです。

しかし、どこからが差別になってしまうのかは、とても難しい問題だと思います。もちろん個人差はありますが、男女では、筋肉量や体格での差がみられます。そのためもし、男性と女性でスポーツを競うとすれば、それは公平とはいえないと思います。なので男女別でスポーツの大会が行われることは必要です。スポーツ以外にも男女それぞれの特性を生かして違いを作ることも、大切なことだと思います。一方で、政治への参加権利は絶対にどちらにも必要なものです。女性の政治への参加が認められていない時期がありましたが、みんなの世界です。性別な

どは関係なく、全員の意見が反映されないといけないと思います。

やはり、どこからが男女「差別」になってしまうのかは、難しい問題で、正直はっきり分かりません。ですが、はじめに述べた通り私は男女「平等」とは、性別で区別されることなく、一人一人の人間が自由に生きられることだというのは確かだと思います。人はそれぞれ見た目も性格もすべて違います。その中で性別というのも、あくまでその人の一部に過ぎません。その「性別」という一部によって「男はこうだ」「女はこれをしてはいけない」など縛られることはありません。「性別」により人間の可能性を潰すようなことはしていけないと思います。

世界には、男女差別により、苦しんでいる方々が沢山いらっしゃいます。少しでも早く性別に捉われない、男女平等な世界が広がっていくよう、心から願っています。

講評

男女平等については、性別に縛られることなく、個性を尊重し、自由な選択ができる社会の実現について、また、男女差別については、伝統を優先している差別的な伝統や、風潮に対する問題提起をして自分の考えをしっかりと述べている。

男女共同参画都市宣言

（市制百周年記念）

美しい自然と確かな歴史、豊かな文化に恵まれた会津若松市の市民として、誇りと自信を持ち、男女の平等を基本理念に、「男女共同参画都市」を宣言します。

1　わたしたちは　性別にとらわれず、ひとりひとりの人権が尊重され、個性と能力が生かせる会津若松市をめざします。

1　わたしたちは　お互いを認めあい支え合って、あらゆる分野に男女が共同で参画でき、いきいきと暮らせる会津若松市をめざします。

1　わたしたちは　共に手をとりあい、かけがえのない地球の環境を守り、平和で豊かな会津若松市をめざします。

2000年2月27日

会津若松市

市では、平成31年４月から令和６年３月を計画期間とする
「第５次会津若松市男女共同参画推進プラン」を策定し、
「性別にかかわりなく、多様性を尊重し、一人ひとりが
その個性や能力を十分に発揮することができるまち」
を目指して、
市民の皆さんや事業者の方々とともに取組を進めています。

会津若松市
UDキャラクター
ゆにばくん

発　行　令和５年１月
会津若松市　企画政策部　企画調整課　協働・男女参画室
〒965-8601　会津若松市東栄町３番46号
TEL　0242-39-1405　FAX　0242-39-1400
https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2019122600010/
この作品集は市のホームページにも掲載しています。